

パブリック・サービス研究分科会 12 月 「図書館力」研究グループ報告書	
日時	2010 年 12 月 16 日(木)
場所	国立音楽大学
記録	市川 (法政大学)
参加者	阿部(早稲田大学)、池上 (東洋英和女学院大学)、市川 (法政大学)、 菅原 (中央大学)、田中(山梨英和大学)、武藤(中央学院大学)

## 作業内容

### ① 学士力について意見交換

- ・学士力に対する図書館の関わりとしては、初年次教育の枠組みの中で図書館ガイダンスを行うことなどが考えられる。(参照：「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）第 2 章 第 2 節、第 3 節」)
- ・学生の学力、意欲、規範の低下が指摘されており、それらを図書館が向上させる取組が期待される。
- ・ガイダンスでは回答を出すのではなく、「学ぶ」ということを教える、気付かせることが重要。
- ・アメリカの大学図書館の例（ジョージメイソン大学：レファレンス出張など図書館外に積極的に出ていく取組）

### ② 他部署、教員との連携について意見交換

- ・図書館主催で職員向けデータベースガイダンスを実施した。(法政)
- ・学習環境支援センターの例（図書館、学生センター、情報センター等が連携）(法政)
- ・キャリアセンターと共催のデータベース講習会（東洋英和）
- ・情報センターやキャリアセンターとの連携事例（お茶の水女子）
- ・教員と連携し、ガイダンス等を行うためには、教員と対等に話せる知識・スキルが求められる。
- ・他部署や教員と連携するメリット
  - ・職員向けガイダンス等の実施により、他部署職員の図書館理解が深まり、図書館の取組が展開しやすくなる。
  - ・学内に図書館の理解者、サポーターを増やすことで、図書館で出来ることの幅が広がる。
  - ・学部事務所やキャリアセンター等と連携することで、学生からの質問を繋げることができ、学生が生活しやすくなる。

### ③ 今後の方針について意見調整

- ・図書館は全学の構成員と関わりが持てる機関であり、「汎用性技能」を教えることができる場である。
- ・図書館が図書館力を発揮し、学士力向上に資するためには、他部署や教員との連携が必要不可欠である。

## 次回までの課題

- ・「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」を再度各自熟読する。
- ・他部署や教員と連携した図書館の取組について参考資料を収集する。

(以上)